

人口の見通し

日本の総人口は、平成20年をピークにその後減少局面に入っています。国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（平成29年推計）」では、今後も人口は長期的に減少を続け、合計特殊出生率が上がってもその傾向は変わらず、また、令和12年までにおいて高齢者の人口は増加する一方、生産年齢人口と年少人口は減少することが予測されています。

大野市では、人口減少が全国的な傾向よりも早いペースで進んでおり、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」によれば、大野市の将来推計人口は、令和12年には26,323人となり、令和2年に比べ4,506人減少し、特に生産年齢人口（15歳～64歳）は約3,100人減少すると予測されています。

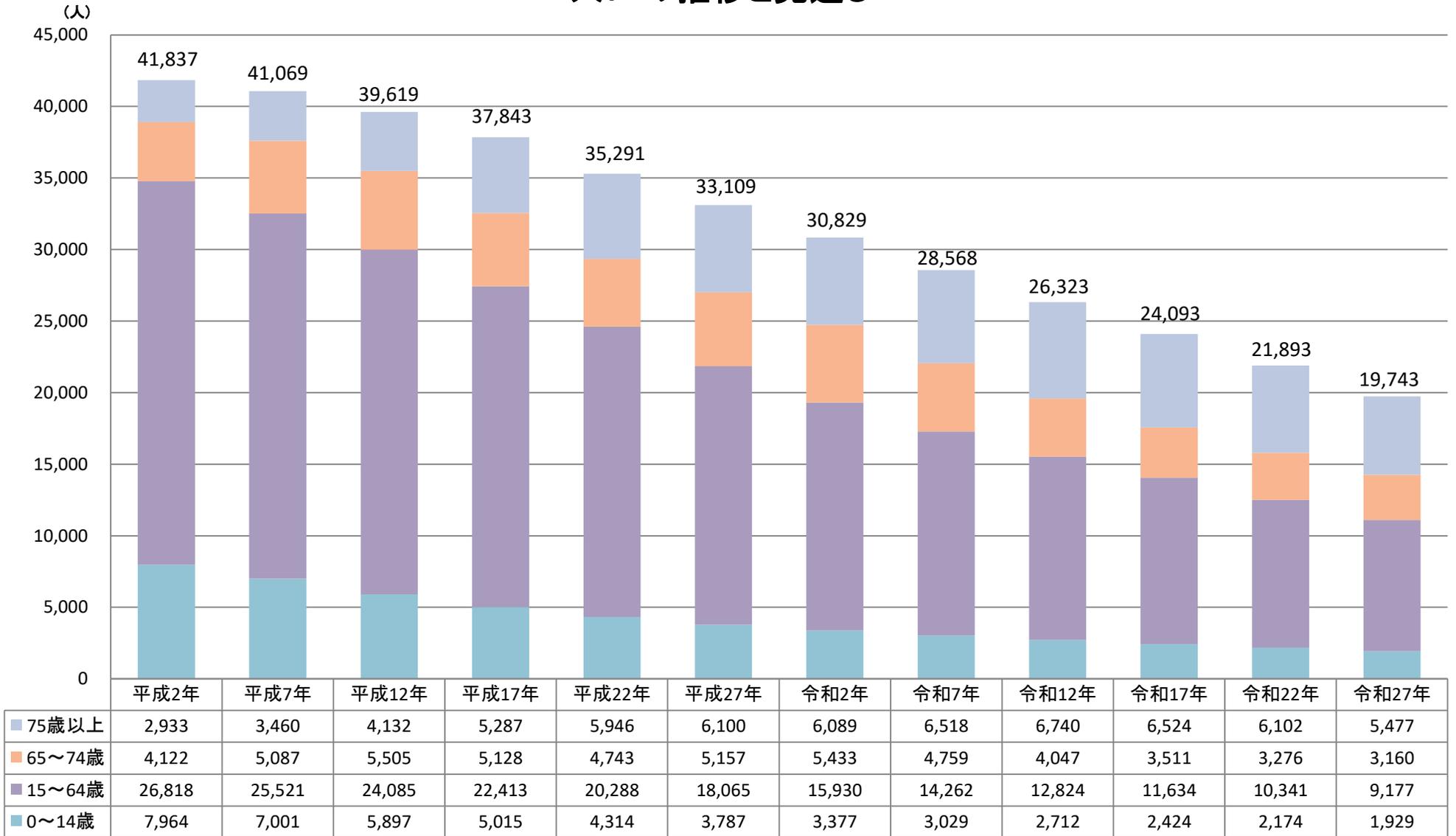
今後10年間で、中部縦貫自動車道県内全線開通や北陸新幹線県内延伸という高速交通体系の大きな転換期を迎えるに当たり、この変化を大きなチャンスと捉え、基本構想の基本目標分野である「こども」「健幸福祉」「地域経済」「くらし環境」「地域づくり」の五つの分野が連携し施策を展開しながら、大野市人口ビジョンに掲げる目標人口に向け人口減少対策に取り組めます。

土地利用

大野市の面積は、福井県内最大の872.43km²で、そのうち約87%が森林です。

土地利用については、今後10年間に、中部縦貫自動車道県内全線開通などの社会基盤の整備に伴い土地の利用にも変化が予測されますが、人口減少時代にあっても、効率的かつ安全で安心な、自然環境に配慮した利用を図ります。その基本方針は、①自然災害に対応する土地利用、②健全な水循環の維持と回復に向けた土地利用、③自然環境と開発が調和した土地利用の3点とします。

人口の推移と見通し



← 国勢調査による実績値

国立社会保障・人口問題研究所による推計値 →